菊池市で暮らす外国人が参加する主体となって企画・運営を行う「せかいかいぎ」のメンバーたち

Kumamoto Prefecture Public Relations Association
合同特集

熊本県市町村広報担当者による合同特集

多文化共生の現在地

昨年6月末の時点で日本に在留する外国人は過去最多320万人。熊本でも2万人を超え、10年前と比べて2倍以上に増加しています。

今回は、県内で進む地域に暮らす外国人住民との交流や、新たな多文化共生の取り組みを紹介します。

他国の文化に触れる

「はい、きくち～」。明るい掛け声とともに笑顔で写真に写るのは、菊池市在住の外国人を中心としたコミュニティー「せかいかいぎ」のメンバーたち。この日は菊池女子高校の文化祭に出店し、それぞれの国の郷土料理を販売しました。

特にベトナム料理の揚げ春巻きが好評で、約1時間後には完売。「他国の文化に触れる良い機会だった」と話す来場者もいて、異文化への理解が少しずつ進んでいます。

菊池女子高校の文化祭に出店した「せかいかいぎ」

誰一人取り残さないために

「菊池市中央図書館では、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げる『誰一人取り残さない』という理念に基づき、多文化共生事業に取り組んでいます」と話すのは、図書館専門委員の小堀久男さん。菊池市内の外国人人口は増え続けており、昨年末は約1200人。その多くは、アジア圏域からの技能実習生です。

菊池市立図書館専門委員
小堀久男さん

同図書館では、雇用側と実習生側の双方から「日本語のコミュニケーションが難しい」という声を聞き、市内在住外国人向けの「日本語教室」を令和2年に開設しました。

その後も地域交流を中心とした「日本語カフェ」や外国人主体でイベントを企画・運営する「せかいかいぎ」を発足し、多文化共生サービスを進めています。

「地元の人からは『国籍に関係なくその人自身と接するようになった』という声も聞き